

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部
平成 27 年度都市地域セミナー 「函館湾岸コンクリート物語」
開催報告書

開催日時：平成 27 年 11 月 28 日(土) 13:00~18:00

タイトル：函館湾岸コンクリート物語

講師：布村 重樹氏

公益社団法人日本技術士会北海道本部道南技術士委員会代表幹事
函館湾岸価値創造プロジェクトチーム (GRHABIP) 代表

内容：

【第 1 部】 函館湾岸コンクリート物語ツアー (集合：13:00/函館市地域交流まちづくりセンター)

【第 2 部】 レクチャー「函館湾岸コンクリート物語」(開演：16:00/ホテルリソル函館)

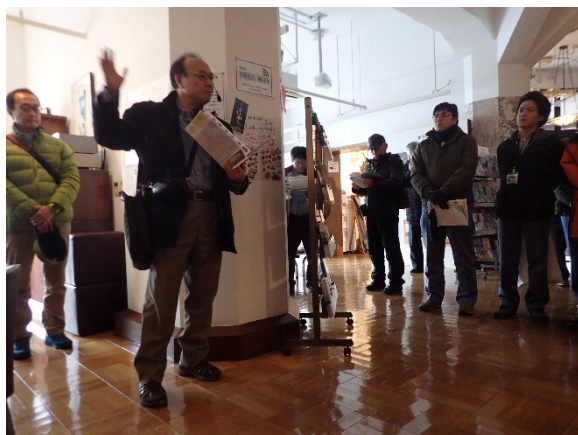
参加者：46 名

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部では、都市地域づくりをテーマにセミナーを開催しており、今年度第 1 回のセミナーとしてコンクリート文化を牽引するストーリーとその構成要素について、広域函館圏を対象に価値発見と活用に関して取り組むグループ「函館湾岸コンクリートチーム」の取り組みと成果について布村重樹氏を講師に招き、ツアーとセミナーを行った。以下にその概要を報告する。

【第 1 部 函館湾岸コンクリート物語ツアー】

○ツアーコース

布村重樹氏をガイドに総勢 45 名が参加し、以下のルートでツアーを実施した。
東北以北最古のエレベーター(函館市地域交流まちづくりセンター内)→東本願寺別院→元町排水地→開拓使函館支庁書籍庫→基坂→高田屋本店跡(井戸)→新新島裏渡航碑→旧栈橋→七財橋→コンクリート電柱→十字街電停



第 1 部 函館湾岸コンクリート物語ツアーの様子

【第2部 レクチャー「函館湾岸コンクリート物語」】



講師の布村重樹氏



セミナー会場の様子

ツアーに引き続き、布村重樹氏を講師とし、総勢 45 名の参加者により第 2 部のレクチャー「函館湾岸コンクリート物語」を実施した。

布村氏は、「函館はコンクリートの草創期のドラマを見ることができる地」だと述べ、観光資源として産業遺産を活用できるのではないかと提案している。現在は産業遺産への注目が集まり、その背景には、従来の物見遊山観光への飽きや、知的好奇心の強い団塊世代の増加等が挙げられた。また、古写真が良い状態で残っているため、それらも活用できるのではと提案している。

次に布村氏は函館の大火と街づくりの歴史について説明した。明治 40 年の大火後レンガ造りの建物や塀が大量に建てられた。大正 10 年の大火により、街並みの殆どが焼失したが東本願寺函館別院のみ焼失を免れ、鉄筋コンクリートの良さを痛感させたという。函館最大規模である昭和 9 年に起こった大火後、グリーンベルトを設ける、坂に面する建造物は不燃建造物にするなどの防災機能を強化する対策が行われた。このようにして函館は都市計画とインフラ整備を通してコンクリートの重要性を実証してきた。

布村氏は「日本の近代化は函館から始まっている」と述べ、その理由として①日本初の開港都市として外国人の大量流入に伴い技術が流入したこと②函館の地の利がアジアの入口であったこと③貿易を振興していたこと④良質な石灰石鉱山が近郊にあったことなどを挙げた。その後、道南の土木産業の歴史、コンクリート技術の歴史、峯朗鉱山・セメント製造の歴史について細かく説明がなされた。

最後に、今までの活動を踏まえて、今後はより発展させていくということであった。この活動は一部のマスコミも注目しているなど、大きな可能性が確認できた。今後の活動としては、関連する情報を使いやすく整理すること、その情報の冊子化やパネル化、体験観光メニューの開発、教育メニューの開発、魅力の PR そして遺産登録を目指す、と述べた。